

安らぐ「お帰りなさい」

松本 昭和レトロな趣の「実家」カフェ



「お帰りなさい」と、出迎えてくれるカフェが、松本市蟻ヶ崎3にある。築50年以上という昭和の雰囲気漂う民家を使った「実家カフェ」だ。靴を脱いで上がった、丸いちゃぶ台を置いたり。オーナーの今西功さん(47)と妻孝恵さん(42)の「実家」にきたように、くつろいでほしいという心遣いが表れている。

(八代啓子)

住宅街にたたずむ姿からは、カフェという感じは受けない。庭を通り、玄関ドアを開けると、今西さんの「お帰りなさい。いらっしゃいませ」の声が迎えてくれる。ついつい「ただいま」と言ってしまう人もいる。山口百恵さん、ピンクレディーなどのレコードジャケットを壁に張ったり、当時の音楽を流したり。家具も当

「お帰りなさい」と迎える今西さん夫妻。店内には懐かしいレコードやジャケットが並ぶ。時の物といい、タイムスリップしたような雰囲気だ。新しい家では、なかなか見ることのできない畳、床の間、欄間もある。昭和時代に流行した雑貨、服、音楽が好きという功さん。こうした物を通して、以前から、お客と交流したいと考えていた。孝恵さんは松本市出身で「サイトウ・キネン・フェスティバル」などがあり、文化的に面白い。個人的な店もあり、松本で何か始めたいと思った。孝恵さんの実家の倉庫を整理した際、子ども達の頃に使っていた教科書、足踏みオルガンなどが出てきた。「懐かしさ、ワクワクした。この感覚を、店で形にしたかった」と、松本で、昭和のイメージがする店



★まんぷく食堂がギョーザを販売 松本市笹賀の公設地方卸売市場内の同店は、移転前の元町の店で提供していた「焼餃子(ギョーザ)」を25年ぶりに復活した。横浜でギョーザ作りを修業した父から店を引き継いだ小穴健二さん(44)が、皮から手作りする。外はパリパリでかむともちもちした食感、具のうま味が特徴。1日限定20食。1人前(5個)400円、餃子定食6000円。予約や持ち帰り、生ギョーザの注文にも応じる。午前6時45分～午後1時。定休日は日祝日と市場の休業日。57・6008

★お店ガイド

をつくることにした。メニューは野菜中心で、すり流しスープ(450円、以下いずれも税別)、ごはんばんとスト(同)、実家プレート(850円、数量限定)など。今西さん夫妻は「図書館帰りなど、お散歩がてら店を探してもらえたら、のんびり気軽に過ごしてほしい」と話す。午前11時～午後6時。金曜定休。8070・6985・4111

「ザ」＝写真を25年ぶりに復活した。